

## 第 25 期第 6 回物理学委員会 議事録

日時:令和 3(2021)年 9 月 25 日(土) 15:00~17:10

場所:オンライン(主会場 JAXA 宇宙研)

出席者(29 名中 25 名):

野尻美保子(委員長), 腰原伸也(副委員長), 田村裕和(幹事), 山崎典子(幹事), 梶田隆章, 川村光, 森初果, 浅井歩, 浅井祥仁, 飯島徹, 板倉明子, 市川温子, 川上則雄, 櫻井博儀, 須藤靖, 瀧川仁, 田島節子, 常行真司, 永江知文, 林正彦, 深川美里, 藤澤彰英, 観山正見, 山内正則, 渡部潤一

(欠席:相原博昭, 岡眞, 五神眞, 松尾由賀利)

(敬称略)

説明者:笹尾真実子, 吉田善章

### 1. 委員長挨拶(野尻)

総会延期の報告および本日の物理学委員会の議題等が紹介された。提言見直しに関する意見交換を行ない, 会員意見交換会に反映させたい。

### 2. 夏季部会報告(野尻)

委員長より第 3 部夏季部会の報告が資料に基づいてなされた。特に科学的助言機能・「提言」等のあり方の見直しについて, 6 月の幹事会連絡会議, その後の議論について夏季部会で議論された内容などが紹介された。また分野横断型で設置された「カーボンニュートラルに関する連絡会議」の設置なども報告された。

### 3. 関連委員会, 分科会報告

#### 3-1IAU 分科会(渡部)

IAU 会員申請についての資格確認作業を行なっている。日本から名誉会員も選出された。IAU の Asian Pacific 会議を 2023 年に招致することになった。

#### 3-2 天文学・宇宙物理学分科会(林)

天文学の大型将来計画について, マスタープランと平行する形で, 策定を始めている。公開シンポジウム「日本学術会議と日本天文学会—よりよい連携のために」を開催した。

#### 3-3 IUPAP 分科会(藤澤)

IUPAP 総会が 10 月に開催される。そこでの改選にむけ日本から chair として 3 人を推薦した。IUPAP100 周年の活動を IYBSSD と協力して行なうべくワーキンググループを設置した。

#### 3-4 物性物理学・一般物理学分科会(森)

「現状と未来」について議論を行ない, 分科会から全体にむけるべく研究力委員会と協

力してすすめることになった。マスタープランと平行し、将来計画を分科会全体で議論するような仕組みを整えていく。プラズマサイエンス小委員会が設置され、分科会からも協力する。

#### 3-5 素粒子物理学・原子核物理学分科会(浅井 S)

カーボンニュートラルの議論に大型施設を利用するものとして参画する。人材育成に関してシンポジウム開催に向けた議論を開始した。

#### 3-6 物理教育研究分科会(笹尾)

前期の提言をいかに実現につなげるか、と言う観点から、学協会・東北大学等と協力して活動をおこなっている。また遠隔授業の影響や物理におけるジェンダーバランスを今期における活動の核と考えている。(第3回は10/15に行われる予定)

#### 3-7 プラズマ小委員会(吉田)

学問としてのプラズマサイエンスを学際的に捉えることを目的に小委員会を設置した。数理科学、工学等の関係者も含め、今後分野横断的な議論を行なうことを進める。

#### 3-8 理工学ジェンダーダイバシティ分科会(野尻)

理工系におけるジェンダーの不均衡について、社会にあるバイアスについて、初等、中等教育の中で効果的に対策が取れないか、という観点に着目し、部を横断した活動を始めている。

#### 3-9 男女共同参画委員会(野尻)

先に行なったアンケートを提言としてまとめている。新しい提言発出の枠組みの沿って、提言発出にあたり、国大協等に内容について事前に情報提供をする分科会開催が予定されている。

### 4. 提言等の見直しに関する意見交換

提言が、学術の特定分野による利益誘導と見なされてはいけない、という観点で見直しが進んでいる。各部会などの意見を、幹事会等で取り込む議論は行われている。

Q: 提言には、政府等に対し意見をいい、その結果を評価をする、という役割もあった。また分科会の意見というのも、その分野の専門家の意見として大型計画等に反映するなど一定の効果があった。今後の学術の変革に対応するものとして、「見解」に十分な効力を持たせられるか、その仕組みはあるか

A: 提言の方は、ステークホルダーとの意見交換を義務づけ、外部レビューをいれるなど threshold をあげ、重要度の高いものに絞るという工夫をしたい。すると「見解」は相対的に重み下がる可能性があるが、学術の変革等への対応はやはり分科会レベルではなくより広い範囲で議論し「提言」となるのではないか。

C:提言を絞る,ということには賛成である。一方で提言等を受ける側に実行する仕組みを作っていないと,せっかくの重要な提言が効力を持たない。学会側だけでなく社会,国とともに制度設計が必要であろう。

Q:提言をだした場合,それをうける義務はどこにあるのか?検証は自己点検に過ぎないのか?

A:事前にステークホルダーと議論するのはそのためでもある。

Q:提言等をだす相手は政府なのか?社会一般か?例えばコロナワクチンの啓蒙などで,社会に直接訴える言い方というものもあるのではないか?

A:どちらもありうるとは思う。社会に対してはシンポジウムなどもあるとは思いますが,提言という形はそぐわないかもしれない。幹事会記者会見などでは,直接に社会に訴えるというよりマスコミに広げてもらう期待をしているが,十分ではないという意識は持っている。

C:広報戦略と同じで,発出するものについてはターゲットを明確にすることは必要。

C:提言がどう社会に反映されたか,ということが重要であり,結果として反映されない提言をだすことが信用失墜に繋がる。今それを政府に要求することは難しいかもしれないが,学会側だけではなく制度変更を考えるべき。

C:検証については,学会側がこれまで十分に行なってこれなかったという点もある。強制力はないにせよ,論理的な検証は意味があるはず。

C:提言について記者会見をなるべくやるべき,ということは以前から言われてきたが,今後はさらに確実にこなすべきではないか。

C:マスタープランについて3年に一度行なうという頻度や審査方法が適切か,またロードマップとの差別化も考えるべきではないか。

C(幹事団)提言と見解の間の差別化として,学会がより協力的に社会に発出する体制をとるのが提言という考え方もできるのではないか。

## 5. カーボンニュートラルに関する連絡会議について(板倉)

9/16に初回が行われ,メンバー+マスコミ等で100名以上の参加があった。まずは参加者の確認や,すでに始まっている活動の紹介が行われた。どうあるべき,ではなく社会がそう向うようなインセンティブを持たせること,次世代をになう児童生徒への説明の仕方,脱炭素というワーディングについて,など様々な発表もあった。資料を見ていただきたい。

Q:この連絡会として目指すゴールはあるのか

A:短期で結果の得るものではないので,各方面の活動を連携させることを当面の活動としているが今後の議論と考えている。

## 6. 研究力委員会について(腰原)

資料に基づいて説明があった。広い分野で共通して認識されている学術の問題について、定量的な理解、モデル化、から行なう。大きな問題であり、今期だけではなく、学術会議として継続的におこなうべき活動と認識している。12月に学術フォーラムの開催、各方面へのアンケートなども計画されている。

C:同様の問題は様々な場所で議論されている。世界の中の立ち位置という場合、発展する国のことも考えなくては行けない。大学ファンド等いろいろな動きもあるので、短期、長期での提言発出をすべきではないか。また学術同様、日本の産業も世界的な地位は次第に下りつつある。学術と産業の creativity の回復は研究人材を生かすという意味で、共にすすめるべきことだということを産業界にも訴えるべきではないか。また研究力というものは、今や大学単体で進められるものではなく、大学共同利用の活用を考えることも必要ではないか。

## 7. IYBSSD 2022 について(野尻)

資料にそって説明が行われた。持続可能な発展のための国際基礎科学年 2022(IYBSSD 2022) がユネスコによって決議された。IUPAP のみならず、広い分野での連絡会議を立ち上げた。

その中の一つの企画とし委員長から、物理学の新しい潮流、長期的な展望、境界領域にスコープをあてた、物理学委員会主催のシンポジウムができないか、という提案が委員長からあった。前期ではマスタープラン対応として各分科会でシンポジウムで将来計画についての議論は行われたが、今期は物理学分野で共同して将来展望について共通認識を深められないか、をスコープとして行うことで合意された。シンポジウム の対象については、企画グループを作って、議論する。

## 8. その他

物理学委員会が母体となって選出された会員、連携会員の中には、分野横断的な他の委員会に入られている方も多数いる。今後の選考プロセスに見直しを加えられることが予想されるため、現在連携会員が学術会議に対して担っている役割を把握し、次期連携会員の選出において参考にするために、アンケート調査を行ないたい、という提案が委員長からあった。

Q:事務局に問い合わせるのではすまないのは何故か

A:すぐに出でこないのではないかと懸念したが一度は問い合わせしてみる。

## 9. 配布資料一覧

1. 第3部夏季部会(2021/8/18-19)議事次第および資料
2. 第3部夏季部会各委員会活動報告
3. 1 2021/6/24 幹事会資料 科学的助言機能・「提言」等のありかたの見直しについて

3. 2 2021/7/29 第3部「意思の表出」等意見交換会概要紹介
3. 3 理工系ジェンダーダイバーシティ分科会からの意志の表出發表資料
4. 1 「カーボンニュートラル(ネットゼロ)に関する連絡会議」設置趣意書
4. 2 「カーボンニュートラル(ネットゼロ)に関する連絡会議」第1回会議資料
4. 3 「カーボンニュートラル(ネットゼロ)に関する連絡会議」幹事会記者説明資料
5. 我が国の学術の発展・研究力強化に関する検討委員会(研究力委員会)紹介資料
6. 1 「持続可能な発展のための国際基礎科学年 2022」(IYBSSD2022) 連絡会議設置提案
6. 2 IYBSSD2022 プレミーティング資料

以上